# 第３回昭島市総合基本計画審議会
# 議事要旨

＜ 日 時 ＞　令和元年８月９日（金）19:00～

＜ 場 所 ＞　昭島市役所　３階　庁議室

＜出席者＞（敬称略）

【委員】

田中　啓之（会長／相模女子大学 人間社会学部長 社会マネジメント学科 教授）、前田　耕司（副会長／早稲田大学大学院 教育学研究科 教授）、白川　宗昭（昭島市教育委員会 委員）、荒井　康裕（首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境コース 准教授）、中島　岩雄（昭島市自治会連合会 会長）、浅見　勇（昭島観光まちづくり協会 事務局長）、信行　賢順（連合東京多摩中央地区協議会 事務局長）、日惠野　貴之（昭島六団体連絡協議会 専務理事）、細谷　訓之（昭島市社会福祉協議会 事務局長）、水野　宏一（昭島市商工会 事務局長）、大田　眞也（昭島市医師会 常任理事）、杉田　一男（昭島市まちづくり委員会 委員）、山下　俊之（昭島市行財政改革推進会議委員）、赤田　輝子（公募市民）、河村　美紀（公募市民）、和田　容子（公募市民）

【事務局】

永澤貞雄（企画部長）　萩原秀敏（政策担当部長）　滝瀬泉之（総合基本計画担当課長）　森田晃（企画調整担当係長）　田中一輝（企画政策係主事）

【策定支援事業者】

松岡宏（(株）地域総合計画研究所）　三浦洋平（(株）地域総合計画研究所）

【傍聴者】

なし

＜配付資料＞

基礎資料　：基礎調査　Ⅰ時代潮流
資料１　　：自治体戦略 2040 構想研究会　第一次・第二次報告の概要
資料２　　：まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 について
資料２－２：関係人口説明資料
資料３　　：「東京と地方が共に栄える、真の地方創生」の実現を目指して
　　～東京都総合戦略～（概要）
資料４　　：「３つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019 年度）
　　～2020 年に向けた実行プラン～（抜粋）
資料４－２：未来への投資～人が輝く東京に向けて～　重点政策方針 2019
資料５　　：「都市づくりのグランドデザイン」の概要
資料６　　：将来都市像　庁内検討案

資料７　　：係長・主任職員作業部会　作業結果まとめ
資料８　　：昭島のこれからを考える市民フォーラム　実施報告書
資料９　　：まちづくりのためのキーワード（平成 31 年１月　市民意識調査結果より）
参考資料１：将来都市像等の変遷
参考資料２：将来都市像等 26 市比較

＜議事要旨＞

## １　開会

## ２　会長挨拶

会長：

本日の審議に入る前に、鈴木委員、松本委員から欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。また、荒井委員につきましては、先程、審議会開始前に事務局より委嘱状が交付されましたので、ここで、自己紹介をお願いします。

【　荒井委員より自己紹介　】

会長：

次に、前回の審議会の議事要旨について確認したいと思います。何かお気づきの点等ございますか。ご指摘の点などないようですので、第２回審議会の議事要旨は審議会で確認されたものとします。

## ３　議題

### （１）国や都の動向について

【　事務局より国や都の動向について説明　】

【　質疑　】

中島委員：

国は地方創生と言っているが、東京都はそういったことは言っていない。本日の説明を聞いた印象だが、東京が輝くことで、さらに東京に人が増えてしまうのではないかという気がした。

事務局：

東京都もまったく考えていないわけではないが、人口が流入してくる自治体では、その他の自治体とは考え方が違うところがあり、そういったところが東京都は出ているのではない

かと思う。最初に説明した総合戦略を立てたのは舛添都知事の時代であるが、直ぐに小池都知事に代わり、新たに実行プランを作成した。総合戦略を廃止したわけではないが、もう少し地域を活性化させる方向に変わってきているのかなと印象は受けている。

副会長：

基礎資料の 20 ページに近隣関係の希薄化とあるが、昭島市も近所付き合いがなくなってきているという結果があり、そのような状態であることに驚いている。社会関係資本をどのように再構築していくかが、昭島においても重要な課題になってきているのではないか。

事務局：

コミュニティを支える世代交代が進んでいないことには危機感を覚えており、新たな地域コミュニティの在り方については、この審議会でも議論いただきたいと考えている。

会長：

若い人を含め、濃密なコミュニティを形成することは容易ではない。コミュニティの活性化は重要だが、例えばＩＴの活用など、何かしらの工夫は必要だと感じている。

中島委員：

昭島市の自治会加入率は 36%を切っている。加入促進は行っているが、若い方々にはなかなか入ってもらえず、高齢化が進んでいる。自治会の大きな活動としては、夏祭り、運動会があり、特に運動会は昭島の特徴でもある。また、あまり定着はしていないが防災訓練も行っている。

副会長：

防災の観点からもコミュニティは非常に大切である。今の若い人は、地域コミュニティに参加する場がなくなっている。ロンドンオリンピックでは最終聖火ランナーに７人の若い男女が選ばれ、彼らに夢を託し、人々がつながりをもたなくてはいけないという思いがイギリス全土に訴えられた。監視をされたくないという人々が増える中、そういった方々を表に出すようなことが何かできないものか。

事務局：

今いただいたご意見については、基本計画の内容についての検討を行う中で、具体的に議論いただきたい。昭島市として喫緊の課題を抱えているということは、皆様にもご理解いただきたい。

**（２）将来都市像（キャッチフレーズ）について**

【　事務局より将来都市像（キャッチフレーズ）について説明　】

【　質疑　】

白川委員：

５月のフォーラムに参加して感じたのは、若い参加者の方が多く、昭島は子育てしやすいまちだということ。一方、お祭りなどはあるものの、引っ越してきたばかりの人には参加しづらいという意見も聞かれた。昭島で産まれた子どもは昭島がふるさとになる。ふるさとづく

りが大切である。

赤田委員：

昭島はイベントごとが多く、楽しいことが多いと感じている。くじら祭、花火なども、見に来る人々は多い。そのように人が集まることを利用し、まちを盛り上げていくこと考えられればよいと感じている。

浅見委員：

昭島は人が温かい印象がある。つながりがあるのが昭島のよさ。また、地域ではお祭りなども盛んであり、10 年後を考えたときに、子どもたちの声が聞こえるまちになってもらいたい。そのためには子育てに優しい、安全、環境がよい、そんなまちであってほしい。

荒井委員：

資料６を見たときにまず目に留まるのが「水」。外から見た昭島市の特徴、セールスポイント、資源として「水」があるのだと感じた。

和田委員：

昭島の水が美味しいということは強く感じている。また、緑も豊富で子育てしたいと思える環境がある。まちの落ち着き、窮屈でない広々とした感じも、子育てをする人にとっては好印象なのではないか。

赤田委員：

水が美味しいのはもちろんだが、水道料金が安いのも昭島のよいところ。

会長：

現在住まいは昭島から離れてしまったが、戻ってくると水が冷たくて美味しいと感じる。ただ、湧水が減ってしまっている宮澤の諏訪神社のことは寂しく思っている。

白川委員：

昭島の水というと「水道」「湧水」「多摩川の水」の３つがある。水という概念を少し整理して考えられるとよいのではないか。

細谷委員：

将来都市像の庁内検討案のうち、個人的には５番がよいと感じた。「人、地域、共に支え合う、水、緑」といった文言が含まれているのがよい。多様性を支える受け皿、地域、人、つながりが大切だと感じている。

水野委員：

今年のくじら祭には大クジラが登場し、パレードにも参加した。沿道の皆さまにも非常に喜んでいただけた。クジラも水と関係する動物である。

将来都市像としては、一般市民の方に喜んでもらえるようなキャッチフレーズがよい。企業サミットでの堺屋先生の言葉にもある「楽しさ」「明るさ」、そういった表現の含まれる庁内検討案の１番、２番がよいのではと感じた。

日惠野委員：

私は３番、５番がよいと思った。福祉の仕事をしていることもあるが、そういった部分が含

まれているのがこの２つだと感じた。また、市長の言葉を地域に発信していくのもよいのではと感じている。

会長：

市長は「楽しさ」「大好き」「元気」などの言葉を使われているのか。

事務局：

「元気」はあまり使っていない。「大好き」から始まり、「楽しいまちづくり」ということはよく言われている。市民向けには「大好き」をよく使っている。

中島委員：

キャッチフレーズは非常に大切だと思うが、字数などの制約はあるべきなのか。議論が進み決まったときに、やはり変えた方がということになったときにはどうするのか。

事務局：

第五次計画策定時のことになるが、当初決まった将来都市像に「元気」という文言は入っていなかった。検討が進む中でやはり「元気」が必要ではということで、変更になったと聞いている。字数はコンパクト、必要最低限としていきたい。ご意見いただいたものすべてを詰め込むのは難しいと感じている。

浅見委員：

コンパクトで子どもにも入ってきやすいものにできるとよい。フレーズは短い方が入ってきやすい。

河村委員：

市外の人に昭島と説明してもわかってもらえないことが多く、存在すら知られていないこともある。住んでいるところを自慢できないと、住み続けたいとも思えない。そういったキーワードを入れられるとよいと感じる。昭島のことを外の人に知ってもらうことも大切ではないか。

中島委員：

言葉のプロがいらっしゃれば、そういった方に決めていただきたい。市内には国語の先生もいることから、そういった方につないでもらうのもよいのではないか。

信行委員：

昭島の特徴が「水」であることには誰も異論はない。ここで決めてしまうのではなく、計画策定を掘り下げていくなかで決めていければよいのではないか。

事務局：

ここですぐに決めなければということではない。アイデアを持ち帰り、庁内でも話し合いながら決めていきたい。一度決めても徐々に変わっていくということもあるため、まず一度は決めたものをお示ししたい。

また、具体的な施策展開から積み上げていくと、これまでの計画と変わらないものになるのではとも思っている。市民の皆様が希望する目標を将来都市像として掲げ、そこに向かって施策展開の構築を考えていきたい。

杉田委員：

庁内検討会議で出された意見は提示いただけないのか。どのような意見が出されたのかは知っておきたい。資料６の案に対して庁内からはどのような意見が出されたのか。

事務局：

それぞれの案に対して提案者以外から意見という形では出されていない。各委員に投票をいただき、人気のあったものを本日お示ししている。

副会長：

昭島らしさを出すことが最も大事である。もう一つは将来に向けて何を考えるか。多様性というキーワードが出されているが、これは非常に大切だと感じている。共生のあり方を考えても、キーワードとして落とせないものなのではないか。

## ４　その他

### （１）次回の議題等について

白川委員：

次回の議題はどのような内容になるのか。もう一つ、基本的な資料は、できれば事前に送付いただけるとありがたい。

浅見委員：

資料作成までは難しいにしても、簡単な内容に関するアナウンスだけでもいただけるとありがたい。

事務局：

次回はキャッチコピーを庁内でもんだものをお示しし、その下の大綱についてご意見をいただくことを考えている。

### （２）次回の開催予定

事務局：

次回開催は９月 13 日（金）19：00 からとする。

## ５　閉会